

## 第4学年 社会科学習指導案

日 時 平成27年10月8日(木) 6校時  
児 童 男子9名 女子8名 計17名  
指導者 佐々木 実

### 1 単元名 わたしたちがくらす岩手県 「わたしたちの岩手県」

### 2 単元について

#### (1) 指導の目標と教材観

本単元は、学習指導要領の第4学年の内容(6)にあたり、ア「県(都、道、府)及び我が国における自分たちの県(都、道、府)の地理的位置、47都道府県の名称と位置、イ「県(都、道、府)全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置」を受けて設定したものである。

本単元の導入では、地図帳を活用して、我が国における自分たちの県の地理的位置を捉えるとともに、各都道府県の位置と名称を調べ、47都道府県により構成された日本の全体像をイメージできるようにしている。展開の段階では、その学習を受けて、県内における自分たちの市の地理的位置や自然環境、県全体の地形や主な産業、交通網について調べ、県の特色をつかむことをねらいとしている。本単元の学習を通して岩手県の特色やよさを考えることは、自分たちの住む岩手県の理解を深めるとともに、県に対する誇りや愛情を持たせることができると考える。

#### (2) 児童観

本単元の授業を実施するにあたり、児童の実態をつかみその結果を授業に反映させるために、「岩手県」という言葉からイメージしたウェビングを書かせたり、それをもとにした質問をしたりした。その結果、次のようなことが明らかになった。

- ・市町村名では、「盛岡～都会、店がたくさん、城跡公園、石割り桜」など、家族でよく出かける市町村の特徴や名所は書けているが、その市町村が県内のどこにあるのかを正確に話せる児童は少ない。
- ・土地の様子では、「(東京より)自然がいっぱい」「山、海」「田んぼ、畑」など、身近な場所中心のイメージはできるが、県全体の土地の高低までは意識できていない。
- ・農林水産物は、「米(金札米)」「りんご」「前沢牛」「魚、うに」など、身近な市町村に関する記述がほとんどで、県全体に意識は向いていない。
- ・工業製品や交通の様子については、ほとんどの子がイメージできていない。

以上のことから、児童はこれまでの生活経験や社会科の学習等から、自分の身近な市町村については関心が高くある程度の知識があるものの、地理的認識の点から面への広がりには十分ではなく、県全体の土地や交通の様子、産業の様子についてとらえるところまでは至っていないことが分かった。

### (3) 指導観

本単元では、児童が地図や地形図などの具体的資料を活用することで意欲的に取り組めるよう指導にあたりたい。そこで、地図のおもしろさに気付かせ、地図や地図帳、資料などを活用して学習内容の定着を図るために作業的な学習を多く取り入れたい。そして、地図や地形図などの具体的資料の活用によって、考える力を身に付けられるような指導計画を立て、学習を進めるようにしたい。

また、単元全体の学習を通して、効果的な場面でグループ学習を取り入れ、分かったことや気付いたことを交流したり、一緒に考えたりする時間を設け、友だちの考えから自分の考えをより広げさせたい。

＝考えを深める交流活動＝

単元全体を通して特に工夫する点は以下の通りである。

- ① 導入で児童の興味・関心を引き出し、問題意識をもたせることで学習問題につなげられるような写真・実物・地図・グラフなどを提示する。(資料活用の工夫)
- ② 調べた事実と既習事項や個々の知識を関連づけて、県の産業や交通などの特徴をとらえさせていく。その際、資料や地図を関連付けながら、児童が考えを交流できるように助言していく。(グループによる交流活動)

## 3 単元の目標と評価規準

### (1) 目標

日本の構成や岩手県全体の様子について調べることを通して、47都道府県の位置や名称、岩手県の市町村の位置、土地や交通、産業の様子について理解するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、日本の構成、県の位置や土地の様子、交通、産業を視点に岩手県全体の様子について考え、それらを適切に表現することができる。

### (2) 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
① 日本の構成や岩手県全体の様子について関心をもち、意欲的に調べようとしている。 ② 調べたことをもとに、岩手県の特徴をより深く考えようとしている。	① 岩手県の交通の特徴を人口や土地の様子と関連付けて考え、表現している。 ② 岩手県の産業の特徴を人口や土地の様子、交通と関連付けて考え、表現している。	① 岩手県の交通網や農林水産、工業生産の様子について、必要な情報を集め、地形と産業、産業と交通が関係していることを読み取っている。	① 47都道府県の位置や名称、日本の中における岩手県の位置、市町村の位置、土地や交通、産業の様子の特徴について理解している。

#### 4 単元の指導計画（11時間）

段階	時間	主な学習活動と内容	評価規準及び評価の方法	主な資料
導入	1	<p>日本の都道府県地図づくりを通して、日本の中での岩手県の位置や岩手県の大まかな形や広さをとらえる。</p> <p>わたしたちの住む岩手県は、日本の中でどのような位置にあるのだろう。</p> <p>岩手県は東北地方にあり、北には青森県、西には秋田県、南には宮城県がある。</p>	<p>・活動の様子や作成した都道府県地図から「日本の中における岩手県の位置について理解しているか」を評価する。 【知-①】</p>	<p>日本白地図（地図） 岩手県の位置と東北地方 岩手県の形 トレーシングペーパー 地図帳</p>
	2 3	<p>諸資料や地図帳から、日本が47都道府県からなることを知るとともに、その名称や位置について関心をもつ。</p> <p>日本には、どこにどのような都道府県があるのだろう。</p> <p>日本には、47の都道府県があり、8つの地方に分けられる。</p>	<p>・活動の様子や作成した都道府県地図から「日本の構成について関心をもち、意欲的に調べようとしているか」を評価する。 【関-①】</p>	<p>千葉県（写真） 大阪府（写真） 北海道（写真） 日本白地図（拡大） 地図帳</p>
展開	4	<p>市町村地図づくりを通して、岩手県の市町村、自分たちの住む市町村や隣接する市町村をとらえる。</p> <p>わたしたちの住む岩手県には、どこにどんな市町村があるのだろう。</p> <p>岩手県には、33の市町村があり、県庁所在地は盛岡市である。</p>	<p>・活動の様子や作成した岩手県の市町村地図から「岩手県の市町村について理解しているか」を評価する。 【知-①】</p>	<p>平泉町（写真） 遠野市（写真） 岩手県の市町村地図（図） 八方位図（図） 地図帳</p>
	5 6	<p>地形図づくりを通して、土地の高低の表し方を理解し、岩手県の土地の特徴をとらえる。</p> <p>岩手県の土地の様子には、どんな特ちょうがあるのだろう。</p> <p>岩手県は土地が高い所が多く、中央に北上川が流れ、北上盆地がある。</p>	<p>・活動の様子や作成した岩手県の地形図から「岩手県の土地の様子について理解しているか」を評価する。 【知-①】</p>	<p>岩手県の衛生画像（写真） 岩手県の立体地図（地図） 岩手県の地形図（図） 地図帳</p>

7	<p>交通地図づくりを通して、岩手県の交通の様子の特徴をとらえる。</p> <p>岩手県の交通の様子には、どんな特ちょうがあるのだろう。</p> <p>岩手県の交通は、土地が低く人口が多い市町村を結ぶようにつながっている。</p>	<p>・ノートへの記述内容から「岩手県の交通の特色を人口や土地の様子と関係付けて考え、表現しているか」を評価する。</p> <p>【思－①】</p>	<p>東北自動車道（写真） 東北新幹線（写真） 花巻空港（写真） 岩手県内を走る鉄道（図） 岩手県内を走る道路（図） 岩手県の地形図（図） 岩手県の人々が住んでいるところ（図）</p>
8	<p>農林水産地図づくりを通して、岩手県の農林水産物の特徴をとらえる。</p> <p>米、木炭、わかめは、岩手県のどのようなところでとれるのだろう。</p> <p>米は低い土地で、木炭は山地で、わかめは海ぞいでとれる。</p> <p>つまり、岩手県の農林水産物は、土地のようすを生かして作られている。</p>	<p>・岩手県の農林水産地図への記述内容から「岩手県の農林水産について、必要な情報を集め、地形と産業が関係していることを読み取っているか」を評価する。【技－①】</p>	<p>岩手県内でとれた農林水産物（写真・実物） 岩手県の子な農林水産物（図） 全国3位以内の農林水産物（表） 岩手県地形図（図）</p>
9	<p>工業生産地図づくりを通して、岩手県の工業の様子の特徴をとらえる。</p> <p>岩手県のどこでどのような工業製品がつくられているのだろう。</p> <p>岩手県では、主に中央の市町村で自動車や電子部品、食料品などがつくられている。伝統工芸品の生産も行われている。</p>	<p>・岩手県の工業生産地図への記述内容から「岩手県の工業生産の様子について、必要な情報を集め、地形と産業、産業と交通が関係していることを読み取っているか」を評価する。</p> <p>【技－①】</p>	<p>工場で作られたものの出荷額（グラフ） 岩手県の工業がさかんな市町村とつくられている主な工業製品（図） 岩手県白地図（地図）</p>

ま と め	10	岩手県の特徴をまとめ、ガイドブックをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドブックへの記述内容から「47都道府県の位置や名称、日本における岩手県の位置、市町村の位置、土地や交通、産業の様子の特徴について表現しているか」を評価する。</li> </ul> <p>【表一②】</p>	これまでにつくってきた地図（6枚）
	11	岩手県のガイドブックをつくろう。		

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

農林水産地図づくりを通して、岩手県の農林水産物の特徴をとらえることができる。

### (2) 指導にあたって

- 導入で3種類の農林水産物の実物と全国順位の表を提示することで、問題意識をもたせ、学習問題につなげる。
- 農産物の米が北上盆地で多く生産されているわけを、完成した農林水産地図や生活経験をもとにグループで話し合わせ、自分の考えをもてるようにする。

### (3) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準【評価方法】	支援を要する児童への手立て
観察・資料活用の技能	岩手県の農林水産の様子について、必要な情報を集め、地形と産業が関係していることを読み取っている。 <b>【岩手県の農林水産地図への記述内容】</b>	読み取りには資料のどの部分に注目すればいいのかを一緒に考える。

(4) 本時の展開

段階	学習活動・学習内容	指導上の留意点 (◎評価 ◇研究)	準備・資料
導入  5分	<p>1 岩手県でとれる農林水産物の実物や写真を見ながら、感想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米、木炭、わかめ</li> </ul> <p>2 学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             米、木炭、わかめは、岩手県のどのようなところでとれるのだろうか。         </div>	<p>◇実物を提示することにより、岩手県でとれる農林水産物に関心をもつことができるようにする。</p> <p>◇岩手県の主な農林水産物の表を提示することにより、3種類の農林水産物がどこでとれるのかという問題意識を醸成する。</p>	<p>岩手県の農林水産物 (写真・実物)</p> <p>全国3位以内の主な農林水産物 (表)</p>
展開	<p>3 3種類の農林水産物がどのようなところでとれるのか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米は、広い田んぼがある江刺でとれる。</li> <li>・木炭は、木だから山でとれる。</li> <li>・わかめは、〇〇産というのを見たことがあるから海でとれる。</li> </ul> <p>4 3種類の農林水産物がとれる場所を調べ、地形図に記号で書き入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米→(米)、木炭→(木)、わかめ→(わ)</li> </ul> <p>5 ジャンプの課題についてグループで</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             北上盆地で米が多く作られているのは、なぜだろう。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項や自分の経験をもとに予想することができるようにする。</li> <li>・前に作成した地形図に指を置いて予想させる。</li> <li>・発表する時、できるだけわけも言うことができるようにする。</li> </ul> <p>・3種類の農林水産物がとれる場所を調べるだけでなく、「なぜそのような所でとれるのか」わけも考えるように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板のリアス式海岸、北上高地、北上盆地、奥羽山脈、北上川などが書かれた地形図に3種類の農林水産物のシールが貼られた透明シートを重ね、より深く地形との関係をとらえられるようにする。</li> </ul>	<p>岩手県の主な農林水産物 (図)</p> <p>岩手県地形図</p> <p>透明シート</p>

30分	<p>考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米を作るには、平らなところがいいから。</li> <li>・広いところだとたくさんの米を作れるから。</li> <li>・米を作るには、たくさんの水が必要だから。</li> </ul>	<p>◇米に重点をおいて話し合わせ、県の農林水産業の特徴を、地形と関連付けてとらえることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農林水産物」という言葉をおさえる。</li> <li>・3種類の農林水産物は、土地の様子を生かして作られていることを確認する。</li> </ul> <p>◎岩手県の農林水産業の様子について、必要な情報を集め、地形と産業が関係していることを読み取っている。</p> <p>【観察・資料活用の技能】（発言・ノートへの記入）</p>	岩手県農業研究センターの方の話
10分	<p>まとめ</p> <p>6 岩手県の農林水産業の様子の特徴についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>米は低い土地で、木炭は山地で、わかめは海ぞいでとれる。</p> <p>つまり、岩手県の農林水産物は、土地のようすを生かして作られている。</p> </div> <p>7 学習内容を振り返り、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題や予想に立ち返ったり、ノートや板書をもとにしたりしながらまとめが書けているか机間指導をして確認する。</li> <li>・時間に余裕があったら、3種類以外の農林水産物でも確認し、理解を深める。</li> <li>・わかったことだけでなく、考えたこと、さらに調べたいことを書いている児童を価値付ける。</li> </ul>	

(5) 板書計画

<p>岩手県内でとれた農林水産物 (写真)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・米</li><li>・木炭</li><li>・わかめ</li></ul>	<p>㊦ 米、木炭、わかめは、岩手県のどのようなところでとれるのだろう。</p>	<p>㊧ 米は低い土地で、木炭は山地で、わかめは海ぞいでとれる。</p> <p>つまり、岩手県の農林水産物は、土地のよすを生かして作られている。</p>		
<p>全国3位以内の主な農林水産物 (表)</p>	<p>㊨</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・米→江刺ほか</li><li>・木炭→山</li><li>・わかめ→海</li></ul>	<p>岩手県の主な農林水産物 (図)</p>	<p>岩手県白地図 (図)</p>	<p>岩手県の地形図 (図)</p>
		<ul style="list-style-type: none"><li>○米 (農産物) →低い土地</li><li>○木炭 (林産物) →山地</li><li>○わかめ (水産物) →海ぞい</li></ul>		